

1. 科目名 (単位数)	外国語活動の指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2321
2. 授業担当教員	井草 玲子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、ペア・グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>今日、日本の英語教育は著しく進展し、2020 年には、小学校3、4 年生も外国語活動に参加する。そこでこの新しい動きに柔軟に対応し、より良い授業を目指すため、本講座では、まず、外国語活動の基礎となる外国語指導法や児童のための発音と語彙指導について学習する。次に、テーマを決めて実際に使用されている指導案を検討し、良い点や課題を皆でディスカッションする。その際、受講者自身が外国語活動を体験しつつ、指導法の学びを深め、指導技術に磨きをかける。その後、グループで模擬授業を体験することを通して、外国語活動への理解を深め、教育現場への応用を考えていく。</p>		
8. 学習目標	<p>教師の立場、学習者の立場の両面から、外国語活動の指導について多角的に学習し、オーセンティックな指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導のあり方について理解を深め、模擬授業を通して、教育実践力を高めることができる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：事前学習と事後学習の欄を見て、丁寧に授業の予習と復習を行うこと。 レポート課題： 個人①ワークシート ②模擬授業評価シート ③授業振り返りシート15回分 グループ指導案</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 『新編 小学校英語教育法入門』樋口忠彦他 研究社 2017 年。 『Let's Try! 1』指導編 文部科学省 東京書籍 2018 年 『Let's Try! 2』指導編 文部科学省 東京書籍 2018 年 【参考書】 ①『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 2017 年。 ②『小学校英語の指導法—理論と実践』アレン玉井光江、大修館 2010 年。 ③『Bright and Early:Classroom English for Teachers of Children』Junko Matsuzaki Carrera. 南雲堂 2009 年。 【参考資料】 必要に応じ、ワークシート、補助教材、パワーポイント用印刷資料を使用する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 1. 外国語活動の目標と内容について理解を深めることができたか。 2. 外国語活動の指導法・発音・語彙指導に関する理解を深めることができたか。 3. 実際に使用されている指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導の在り方について理解を深めることができたか。 4. 模擬授業の体験とクラスディスカッションを通して、教育実践力を高めることができたか。 ○評定の方法 復習テスト 30% レポート課題 40% コースワーク (授業中の態度、言語活動参加度、グループワークレポートを含む。) 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められません。 ・受講にあたっては、事前学習と事後学習を丁寧にを行い、授業中は、受講者全員を思いやり、授業に集中し、多くの知識・技能を習得してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		メール : reigusa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 小学校外国語活動の目標と特徴	事前学習	教科書 (pp. 2~10) 及び (pp. 216~220) を読み、外国語活動の目標と内容を把握する。
		事後学習	外国語活動の目標と特徴をワークシートに記入する。
第 2 回	I. 理論編：外国語活動のための指導法 ①Communicative Language Teaching (CLT) ②The Natural Approach	事前学習	教科書の 9 章 (pp. 123~126) を読み、指導法①、②について理解する。
		事後学習	指導法①、②の特徴及び指導上の留意点をワークシートに記入する。
第 3 回	③Content-Based Instruction (CBI, 内容中心教授法) ④Task-Based Language Teaching (TBLT, タスク中心教授法)	事前学習	教科書の 2 章 (pp. 126~130) を読み、指導法③、④について理解する。
		事後学習	指導法③、④の特徴及び指導上の留意点をワークシートに記入する。
第 4 回	⑤Total Physical Response (TPR, 全身反応法)	事前学習	教科書 2 章 (pp. 130~131) を読み、指導法⑤について理解する。
		事後学習	指導法⑤の特徴及び指導上の留意点をワークシートに記入する。

第5回	⑥英語の発音指導	事前学習	ワークシートに提示された英単語を発音し、児童への発音指導について考察する。
		事後学習	児童への発音指導に役立つ指導方法をワークシートに記入する。
第6回	⑦英単語の増やし方の指導 —スパイダーグラムを活用して—	事前学習	児童にとって必要な英単語のリストを作成する。
		事後学習	スパイダーグラムを描く。
第7回	II. 実践編：外国語活動体験を通して学ぶ指導技術 ①教師の役割と児童の役割 ②活動形態とクラスの雰囲気づくりの工夫	事前学習	指導案1（資料1）を読み、全体の流れ、指導上の工夫をハイライトする。
		事後学習	左記①、②の観点から学んだ事をワークシートに記入する。
第8回	③教材教具選定の視点 1. 言語や文化について体験的に理解を深める。	事前学習	指導案2（資料2）を読み、全体の流れ、指導上の工夫をハイライトする。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第9回	③教材教具選定の視点 2. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 3. 音声や基本的な表現に慣れ親しませる。	事前学習	指導案3（資料3）を読み、全体の流れ、指導上の工夫をハイライトする。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第10回	④教材・教具・機器の活用法と評価	事前学習	指導案4（資料4）を読み、全体の流れ、指導上の工夫をハイライトする。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第11回	III. 模擬授業に向けて ①指導案の作成（Group Work）	事前学習	指導案の原案の完成。
		事後学習	指導案の修正。
第12回	②模擬授業のリハーサル（Group Work）	事前学習	授業担当部分の事前準備。
		事後学習	指導案とワークシートの最終点検。
第13回	③模擬授業（授業観察・質疑応答・自己評価）	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認と自宅でリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第14回	④模擬授業の評価・クラスディスカッション・総評	事前学習	模擬授業評価シートのポイントを確認する。
		事後学習	模擬授業評価シートの提出。
第15回	外国語活動の指導法に関するまとめ ・授業評価票の記入	事前学習	14回分の授業振り返りシートを見直し、最重要項目をまとめ、記録する。
		事後学習	授業振り返りシートの提出。